

●竹蛇籠製作学習研究会

11・12回目実施 10月7日(土)9時から開始 22名の参加がありました。この日一番の到着者は九州大分県由布市から松本裕和さんが到着されていました。はるばる大分県からのお越しで大変驚きました。9時過ぎには続々と集まっていたいただき、総勢22名となりました。自己紹介として出身県都市を述べあって交流を深めました。この日は静岡県や兵庫県 大阪府 奈良県等思いもよらない遠方の参加者がおられました。皆さんは、竹蛇籠作りを文献で良く理解をされているけれど、実際に切り出した竹を用いて編む初体験に期待されていました。この一週間編むことに心血を注いで蛇籠を作り上げられた福井波恵さんが先陣を切ってモデル製作に挑戦していただき、それを手本に挑むことにしました。皆さんは手順を飲み込んだつもりで、いざ自分が行ってみると理屈で理解していても長くて大きい竹の扱いが難儀で単純なようで複雑なところがあって、頓挫しておられました。

午前中は各人が試行錯誤しながら苦戦の連続でした。昼食休憩をはさんで気分も新しく勢いをつけてチャレンジしてみますと、苦悩していたところが休憩をすることで、心に余裕が生まれたのか見事にクリアできるではありませんか。午前中の進捗状況だとかなり心配がありましたが、案ずるより産むがやすしとは、このことでした。終盤15時ごろには、さらに調子が上がり順調なスピードとチームワークが回転して楽しい雰囲気生まれていました。この日は7基もの完成品が出来上がりました。本格的に取り組んだのは13時からの午後の部で、これだけの成果を手に行いました。調子が付きチームワークができ、心が一つになるとわずかな数時間で成果が得られました。

10月8日(日)この日は製作学習研究会として12回目になり蛇籠作りのための実質最終日で、製作目標27基に到達できるよう頑張ろうと強い決意で朝を迎えました。大分県由布市から来られている松本裕和さんにも、この日の位置づけを伝え、ご協力をお願いしました。集まった皆さんがたは32人で最高の人数になりました。10時から、かねて2年前に竹蛇籠設置場所での生き物調査を計画していましたので、みなさんは竹蛇籠の成果として生き物の生育状況に強い関心を持っておられたので、参加いただきました。それで蛇籠づくりは午後から開始することになり数時間の作業となりました。高槻市から自転車参加、静岡市に自動車帰宅する人、明日は岡山市での研究発表会に出席する人、学生も一般人も三連休の最終日の予定を持っておられて、まさに明日はないという覚悟で蛇籠製作に取り組んでいただきました。最終成果をまとめてみますと製造総数は25個に計算上はなりました。ここには最初に作った超大型のものも数えました。正確(使用可能品として選別)に数えますと22基が完成したのです。最後の1基に取り組んだ八木さんを中心にした静岡県からのチームは何として仕上げて聖牛に私たちの完成品も加えたいのにと、宵闇迫る18時まで頑張ってくださいました。

それぞれご都合もあって成果確認をする散会の場面は作れず、流れ解散となりました。ご苦労とご奮闘の日でした。また大分からお越しの松本さんはこれまでの車中泊2連泊でしたが、もう一日明日も頑張ってみると3連泊を覚悟いただき10月9日も終日、製作に取り組んでいただきました。最後の夜は車中で工夫に工夫を重ねて、私たちが手にできなかった頭部のまとめの法則性をわかりやすく解説できる技術を発見されて、里山の会に伝授いただきました。こうして最終製作総数(完全に出来上がったものとして選別した数量)は23基とドッキング前のもの1組が完成しました。頭部の組み合わせ8個(完成品4基分)をもって最終回の製作学習研究会を閉じました。一つ一つの学びを繰り返して、何とか蛇籠23基を完成させることができました。残る4基は到達した技術力をもってすれば、これまでの苦しみを繰り返すことなく、きっとスムーズに完成させることが出来ると確信しています。ご参加いただきました179人の皆様ありがとうございました。21日22日はいよいよ竹蛇籠に玉石を入れて完成となり、高さ4mもの中聖牛を完成させましょう。

●中聖牛の設置予定日

10月21日(土)午前9時から聖牛設置して蛇籠を敷き詰め 玉石入れを行って完成させます。一応3

基目までの聖牛を設置できる予定としています。翌日 10 月 22 日（日）は午前 9 時から作業を開始して、正午には完成に持ち込む予定としています。午後 1 時から竣工式を参加者全員で祝い、披露する予定としています。竣工式には参加者全員が玉石をリレー方式で運び込み、昆布茶で乾杯の予定としています。蛇籠に関心をお持ちの皆さん、ぜひご参加ください。これまで出席できなかった皆さんも何も遠慮しないで、ともにお祝いをしましょう。ここ数十年間関西地方では竹蛇籠を使った水制工の設置は見られなかったようです。木津川で初めて再生させることが出来ました。ともに祝おうではありませんか、遠慮なくご出席ください。

式典では 式辞 来賓祝辞 感謝状贈呈 除幕 乾杯（昆布茶）合唱（どんぐりコロコロ、ふるさと、川の流れるように、どじょっこふなっこ、めだかの学校、川は誰のもの、琵琶湖周航の歌、青い山脈）を予定しています。全体スケジュールは 13 時 30 分開会、16 時 30 分散会の約 1 時間としています。天候や準備状況で変更や延長があります

●10 月 14 日（土）京の川の恵みを活かす会主催の活動発表会が開催されます

翌日の 10 月 15 日（日では、）桂川や宇治川、木津川など各地域の鮎や川魚の食べ比べが行われます。場所は京都大学宇治川ラボトリーです。14 日は参加費無料、15 日は一人参加費 2000 円で大変人気の取り組と聞いております。14 日にはやましり山の会は 14 時ごろ中聖牛の取組みについて活動紹介を行います。応援を含めてご参加いただき、魚や川に関しての仲間との交流を深めていただくチャンスです。こぞってご参加ください。

●13 日（金）午前 10 時に琵琶湖で海浜植物について学習されている団体さんが、木津川堤で発見しているハマヒルガオの生育地を確認してみたいとお越しになります。

木津川で第 1 号の発見者である近藤和夫さんにガイドをお願いして、現地確認を行います。都合の許す皆さんご参集ください。来られる皆さんは琵琶湖全周囲を踏破されておられる皆さんだという実践家の方々です。いろいろ学ぶ敢えて交流を深め合えるいい機会でもあります。午前 10 時里山の会集合としております。ご参集ください。

●2017 年度会費の未納入者が昨年より多く残っておられます

2017 年度は早くも 10 月となり年度も後半へと進んできました。ところが毎年のように大至急年度会費の納入をお願い申し上げます。また新しい会員さんの勧誘にもご協力をお願い申し上げます。郵便振り込みとしております。口座番号は 00950-7-46840 です。年会費は 2000 円です。大至急お振込みください。

会誌 43 号の発行を 10 月末と予定しております。郵送料金もかなりの経費となっており、できれば京田辺市文化祭 11 月 4・5 日の会場地に京田辺市中央公民館に受け取りにお越しいただけると好都合で郵送日の削減となって大きく助かります。活動紹介の展示物や模擬店などの鑑賞も目的にしてお越しください。ご協力をお願いいたします。

●12 日竹蛇籠設置場所確認

堂下木津川出張所所長 播川理事長 深田前理事長 森島理事 山村常務理事が出席。

田中組さんが来週から資材運搬用通路の設置開始そして続いて資材運搬、および設置当日は大型重機 ユンボ 2 台の運行を了解いただきました。強力な支援体制が出来上がりました。通常作業に加えて休日作業出勤となります。ご理解とご協力ありがとうございます。



10月7日 第11回蛇籠製作学習研究会 成果物と参加者



10月8日 第12回蛇籠製作学習研究会 成果物と参加者
竹門康弘セント大学生の仲間=青年の力が高齢者を激励し大きな推進力となった



10月8日 第12回蛇籠製作学習研究会 成果物と参加者



10月8日 第12回蛇籠製作学習研究会 成果物と参加

左から大阪の井上さん 小林さん大分の松本さん 静岡の井倉さん 八木君 八木さん鈴木さん



10月9日追加製作日 完成した竹蛇籠

前に10期 後ろに12基 手前と最後部に1基 合計24基が完成

9月4日第1回目の竹蛇籠製作学習研究会の開催時の暗中模索・試行錯誤から約30日間でよくもこれ
ができたものだと思う。合計13開催 延べ参加者179人の力作
有田勉 福井波恵 松本裕和さんの必死の技術研究が成果へのポイント